

ガラテヤ人への手紙アウトライン

I	書き出し (序言)	1 : 1 - 10
a	挨拶—冷静な挨拶のことば	1 : 1 - 5
b	この手紙の主題—熱心な宣言	1 : 6 - 10
II	個人的なこと—使徒の権威と福音の栄光	1 : 11 - 2 : 14
a	アラビヤでのパウロ	1 : 11 - 24
b	エルサレムでの他の使徒たちとパウロ	2 : 1 - 10
c	アンテオケでのペテロとパウロ	2 : 11 - 14
III	教理的なこと—信仰による義認	2 : 15 - 4 : 31
	信仰対律法の行い 自由対束縛	
a	信仰による義認—教理	2 : 15 - 21
b	信仰による義認—ガラテヤ人の経験	3 : 1 - 5
c	信仰による義認—アブラハムの実例	3 : 6 - 4 : 18
d	信仰による義認—ハガルとサラとの対比	4 : 19 - 31
IV	実際的なこと—御霊による聖化	5 : 1 - 6 : 10
	霊対肉 自由対束縛	
a	信仰によって救われながら律法によって生きよう とすることは恵みから落ちることだ	5 : 1 - 15
b	信仰によって救われ、御霊によって生きるなら 御霊の実を結ぶ	5 : 16 - 26
c	信仰によって救われ、御霊の実を結ぶならクリス チヤンの性格が出来てくる	6 : 1 - 10
V	自筆の結びのことば	6 : 11 - 18
a	パウロの自筆	6 : 11
b	パウロ自身の証言	6 : 12 - 18
	1) キリストの十字架対割礼	6 : 12 - 15
	2) パウロの体の上にあるキリストの焼き印	6 : 16 - 18
	(新しい創造に対する新しい割礼)	